

展示資料

1. 掩体壕模型



2. 寄書旗レプリカ



3. 説明パネル（10枚）

掩 体 壕



本郷にある中型機用掩体壕

掩体壕とは日本本土への空襲が激しさを増す中で、航空機や物資、人員等を空襲から守るための格納施設として基地周辺に造られました。

コンクリート製で覆いがあるものを「有蓋掩体壕」、周りを土を盛っただけで覆いのないものを「無蓋掩体壕」といいます。

宮崎基地（現宮崎空港）周辺の赤江・本郷には、中型機用・小型機用あわせて50数基の掩体壕が造られました。その掩体壕の約7割は無蓋掩体壕でした。宮崎基地は主に陸上攻撃機（中型の爆撃機）を運用する基地であったので、小型機用の掩体壕は5基のみで残りは全て中型機用の掩体壕でした。

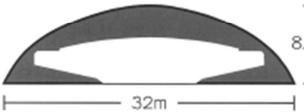
戦後、土を盛っただけの無蓋掩体壕は取り壊されましたが、コンクリート製の有蓋掩体壕は、その丈夫さから現在も6基がほぼ完全な状態で残っています。



赤江にある小型機用掩体壕

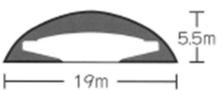
本郷と赤江の掩体壕の比較

本郷にある中型機用掩体壕

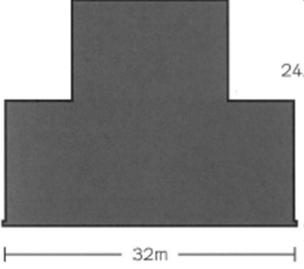


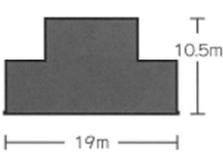

銀河（中型機）

赤江にある小型機用掩体壕




零戦（小型機）





寄せ書き日の丸



日本では、戦地へと出征する将兵を激励して、また郷里の皆がいつも将兵を守っているんだと無事を願い、お守りのように出征将兵の家族や友人などが思いを込めて武運長久を祈って、日の丸に署名やメッセージを寄せ書きにして、将兵に手渡し贈ったのが「寄せ書き日の丸」です。

将兵に手渡しお守りという「千人針」が有名ですが、これは多くの女性が作るお守りであるのに対して「寄せ書き日の丸」は男性からのお守りという側面もあり、実際に寄せ書きされている名前は、女性による寄せ書きなどの例外もありますが、多くが男性です。

多くの将兵は受け取った日の丸を肌身離さず身に付けて戦地へ赴きました。現代の日本では、スポーツ選手の壮行会、転校・卒業などの送別会などで、対象となる人物へ贈られオリンピックなどのスポーツの祭典でも見られます。

武運長久とは、戦場で幸運が長くつづき出征した兵士がいつまでも無事であること

千 人 針



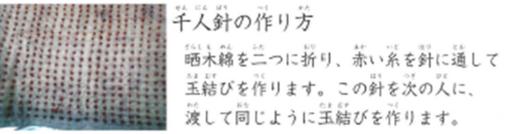
戦地に向かう夫・息子・父親など愛する人のため、敵の銃弾よけになるとの想いから、千人の女性の手を借りて「一人一針」の縫い目の布を作りました。死線（四銭）を超えるとして五銭硬貨、苦戦（九銭）に勝つという意味から千銭硬貨、さらには神社のお守りなどが縫いつけられ、出征の時に持たせ、ひたすらその無事を祈りました。また「虎は千里を行って千里帰る」の故事から、虎の絵が描かれた物もあります。その意味から寅年生まれ的女性には、「一人一針」ではなく、その女性の歳の数だけ縫いつける事ができました。

現在では、千羽鶴などに千人針の風習がうかがえます。

家族の出征の無事帰還を口に出すことも禁じられ、できなくなっていった庶民のささやかな気持ちの現れでもありました。

「虎は千里を行って千里帰る」とは
 虎は一日に千里（約3900km）の速くへ行ってまた戻ってくる。
 勢いの盛んなさまや、子を思う親の気持ちの強さをいう。

千人針の作り方



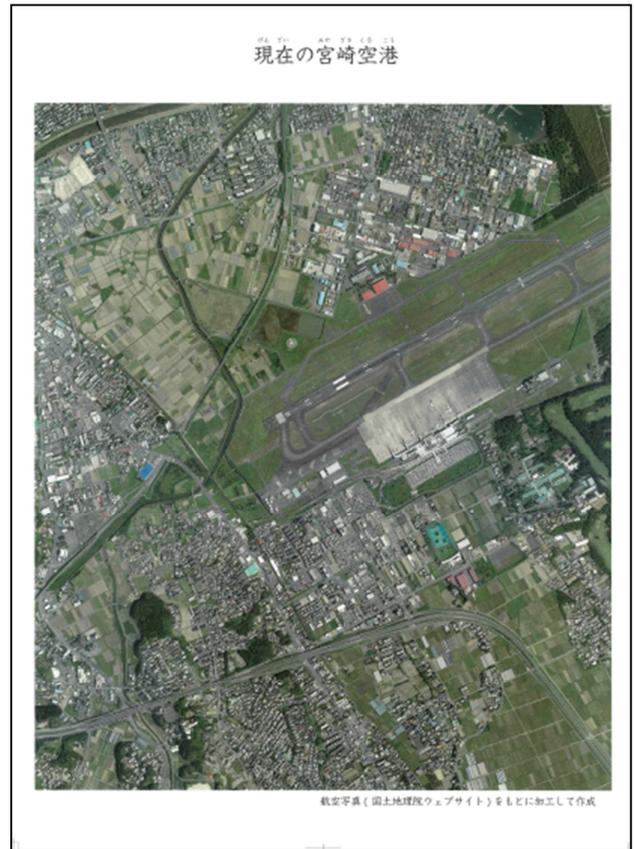
晒木綿を二つに折り、赤い糸を針に通して玉結びを作ります。この針を次の人に、渡して同じように玉結びを作ります。



縦に 20 個

横に 50 列 (86cm×36cm)

展示資料



4. DVD「宮崎の戦争遺構を巡る」



5. リーフレット

中攻用有蓋掩体壕 (中型機用の掩体壕)

掩体壕とは戦争における敵からの爆撃や砲撃・銃撃などの破壊行動から味方の飛行機・車両・物資・人員等を守るために、それらを覆う・囲う目的で造られたものです。コンクリートや土壌・土崩・ドラム缶に土を詰めたもの等で造られ、旧海軍宮崎基地（現在の宮崎空港）周辺には、中型機用・小型機用あわせて50数基の掩体壕が造られました。

掩体壕には大きく分けて、屋根がある有蓋掩体壕と、屋根がない無蓋掩体壕の2種類があります。有蓋掩体壕はコンクリート製のかまぼこ型で、飛行機を完全に覆う強固な造りとなっています。一方で、無蓋掩体壕は土を盛り上げて造った土壇で飛行機を囲っただけで、コンクリート製の有蓋掩体壕と比べると防弾力の面で若干劣りますが、造る手間と資材・時間は削減されます。事実、宮崎基地の掩体壕の約7割は無蓋掩体壕でした。

宮崎基地は主に陸攻（陸上攻撃機、エンジンが2基の中型陸上攻撃機を指し、中攻とも呼ばれる。）を運用する基地であったため、戦闘機等が使用する小型機用の掩体壕は5基のみで、残りは全て中型機用の掩体壕でした。

戦後、土を盛っただけの無蓋掩体壕は早々に取り壊されましたが、コンクリート製の有蓋掩体壕は、その堅固さから現在も6基（本郷地区の中型3基と赤江地区（空港西側）に残る小型3基）がほぼ完全な状態で残っています。

アクセス

- 宮崎自動車道「宮崎IC」から車で約5分
- 宮崎空港から車で約8分
- JR九州・日南線「南方駅」から車で約3分（徒歩約20分）

ほんこうちくえんたいごう
本郷地区掩体壕

所在地：宮崎市大字本郷南方
字西迫5168番154 ほか

宮崎市

中攻用掩体壕を主に使用した機体

四式重爆撃機 飛龍
一式陸上攻撃機
陸上爆撃機 銀河

■宮崎市 総務部 総務法制課
〒880-8505
宮崎県宮崎市橋通西1丁目1番1号
TEL 0985-21-1721 FAX 0985-21-8070
<http://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/>
E-Mail : 03sounu@city.miyazaki.miyazaki.jp

本郷地区掩体壕周辺空撮

○が掩体壕。現在の道路にも、誘導路の名残が見られる。

↑ 現在

↓ 1945年（昭和20年）5月 米軍艦載機空襲時

資料提供・模写製作：南九州文化研究会 戦史研究家 稲田哲也氏 協力：航空戦史研究家 織田祐輔氏

近隣の掩体壕など

※見学の際は、私有地に立ち入らないようご注意ください。

赤江地区の掩体壕

- ・小型機用の有蓋掩体壕
- ・周辺に3基が現存している
- ・本郷地区掩体壕から車で約8分

弾薬庫

- ・対空機銃の弾薬や弾倉が保管されていた
- ・本郷地区掩体壕から車で約7分